

⑤ ワクチン製造拠点の整備 (案)

令和3年5月25日
経済産業省、厚生労働省

将来のパンデミックに備えた国内でのワクチン製造体制の整備

- 平時のワクチン製造設備の維持は企業にとって大きな負担。したがって、平時は企業のニーズに応じたバイオ医薬品を製造することで設備と人材を維持しつつ、**有事にワクチン製造へ切り替えられるデュアルユース設備を確保していくことが重要。**
- 将来のパンデミックに対して迅速なワクチン製造を可能とするため、**製造拠点の新設・拡充、既存設備の改修により、複数モダリティに対応した国内におけるデュアルユース製造基盤の強化を図ることを検討すべきではないか。**
- 将来の未知なる感染症に対応する**新規モダリティによる新規ワクチンの開発にも寄与。**

3 階

輸入

2 階

今後バイオ医薬品産業を担う可能性のあるmRNA等の製造施設の**新設**

平時はバイオ医薬品を製造し、有事にワクチン製造に転用（デュアルユース設備）

- ①デュアルユース設備の新設・拡充
- ②既存設備の改修によるデュアルユース化

【ポイント】

- 平時は、バイオ医薬品で収益を上げられるため、企業活動の中で維持管理費を回収できる。企業負担も求める。
- 有事は、ワクチン製造の予備力として活用可能。
- 新たな技術を有する新規企業の参画を促進。
- 設備投資には設計から建設まで複数年かかることに留意。

- 国民全員分のワクチン確保を可能とする**拡充**
- 技術革新に対応するための施設**改修**

1 階

有事におけるワクチン製造支援
(厚生労働省ワクチン生産体制等緊急整備事業*)

* 武田薬品約301億円、塩野義約223億円、英アストラゼネカ約162億円、アンジェス約94億円、KMバイオ約61億円、第一三共約60億円

【参考】デュアルユースのビジネスモデル

mRNAやDNAベクターといった新たな創薬技術（モダリティ）の登場により、平時（バイオ医薬品）と有事（ワクチン）のデュアルユース製造の切り替えが技術的に可能となった。

